

研修会開催報告

公益社団法人神奈川県看護協会
保健師職能委員会 第2回研修会
2025年1月17日

保健師職能委員会第2回研修会 1月17日開催

今回の研修会は、「引きこもり支援を考える～本人・家族への「理解」と「支援」」と題し、引きこもりの支援において、本人や家族の不安や望む姿を見極め、回復に向けてどのような体験を積み重ねるのが良いか、そのプロセスを考え、本人が自分らしさを実現するための関わり方と保健師等看護職への期待について、臨床心理士・公認心理士として、長く引きこもりに関する支援に携わり、支援に関する研究をされている宮崎大学教育学部教授 堺 泉洋先生の講義とグループワークを実施いたしました。また、より多くの看護職の皆様が参加し、学ぶ機会を持つことができるようオンライン開催としました。

<講義>

堺先生からは、ひきこもりの現状と課題、支援、支援の基本的過程、ひきこもりの家族支援、ひきこもり本人への支援（若者はばたけプログラム）、地域支援について、御講義をいただきました。

ひきこもり支援の課題として、8050と9060の課題があり、親が80歳代では相談に来られる最後のチャンスとなる。親が90歳代となると相談にも来られなくなる。その前に支援につながる事が重要である。

ひきこもり支援のポイントとして、つながり続けること、また会おうねと言える関係であることが大切であること、本人支援の前に、家族が受容・共感できるよう支援すること、ひきこもりから社会参加への狭間をどう乗り越えるかが支援のポイントであることなどをご教示いただきました。

<グループワーク>オンライン上ではありましたが、本日の講義を聞いて引きこもり支援の経験から考えたこと等について、活発な意見交流が図られました。

研修名	2024年度 保健師職能委員会 第2回研修会 テーマ： 引きこもり支援を考える～本人・家族への「理解」と「支援」 講師：堺 泉洋 氏 宮崎大学教育学部 教授
研修年度	2024年度
研修日	2025年1月17日（金）
開催方法	オンライン講習（Zoom）
研修時間	13時30分から16時15分（受付13時00分から）
参加人員	申し込み人数 31名（うち非会員4名） 参加者 22名 職種（保健師3名、看護師19名） 後日オンデマンド配信（1月31日～2月12日） 申し込み人数 47名（うち非会員1名） 受講完了者 22名 職種（保健師4名、助産師1名、看護師17名）
会場	神奈川県総合医療会館 会議室2より Web 配信

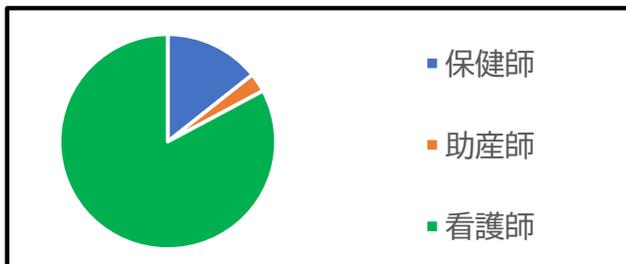
◆2025年1月17日(金) 保健師職能委員会研修会「引きこもりの支援」とは
1/17(金)ライブ配信・1/31(金)~2/12(水)オンデマンド配信

アンケート回収率 回答数 n=35

申込者(ライブ31,オンデマンド47)	78
受講者(ライブ22,オンデマンド22)	44
アンケート回収(ライブ17,オンデマンド18)	35
アンケート回収率	79.5%

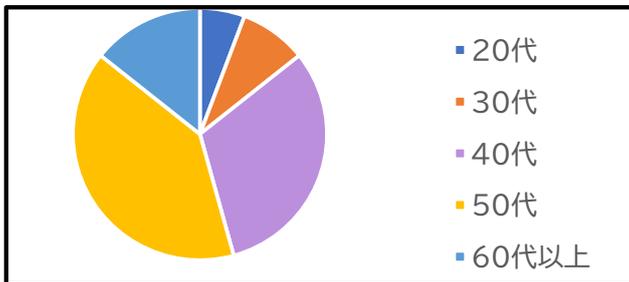
(1) 参加職種

保健師	5
助産師	1
看護師	29



(2) 年代

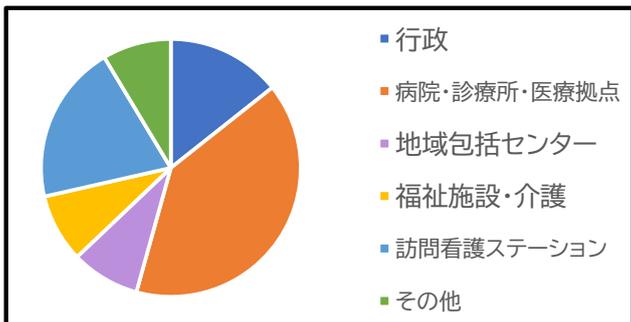
20代	2
30代	3
40代	11
50代	14
60代以上	5



(3) 所属

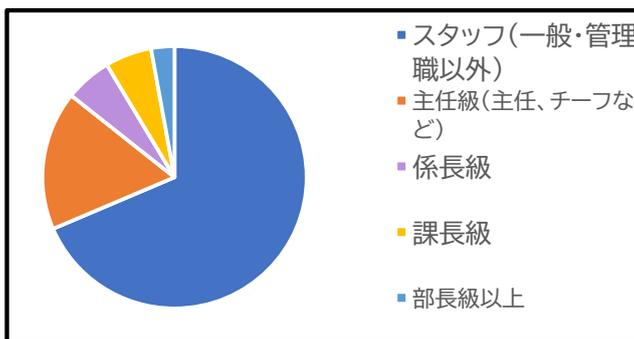
行政	5
病院・診療所・医療拠点	14
地域包括センター	3
福祉施設・介護	3
訪問看護ステーション	7
その他	3

その他・・・教育機関



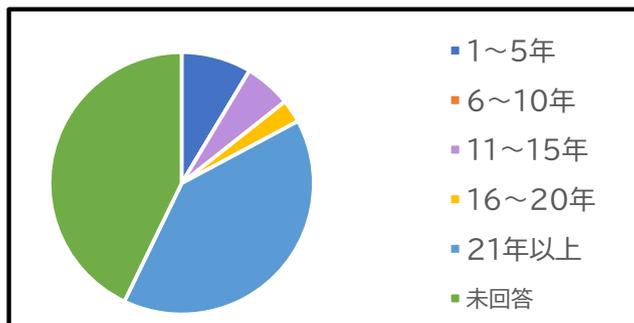
(4) 職位

スタッフ(一般・管理職以外)	24
主任級(主任、チーフなど)	6
係長級	2
課長級	2
部長級以上	1



(3) 経験年数

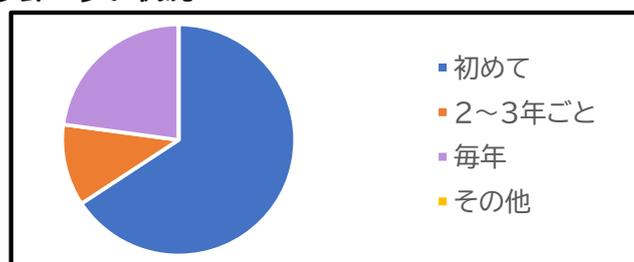
1～5年	3
6～10年	0
11～15年	2
16～20年	1
21年以上	14
未回答	15



1 保健師職能委員会の企画する講演会や研修会の参加状況

初めて	23
2～3年ごと	4
毎年	8
その他	0

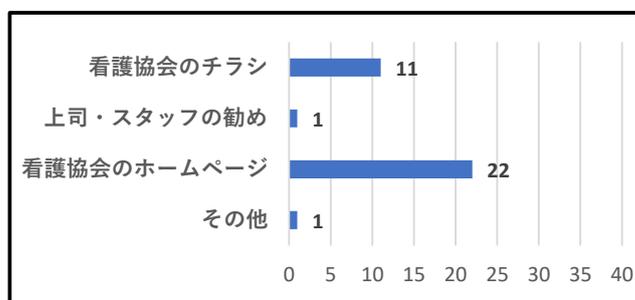
その他・・・テーマと日程によって



2 研修をどのようにして知りましたか

看護協会のチラシ	11
上司・スタッフの勧め	1
看護協会のホームページ	22
その他	1

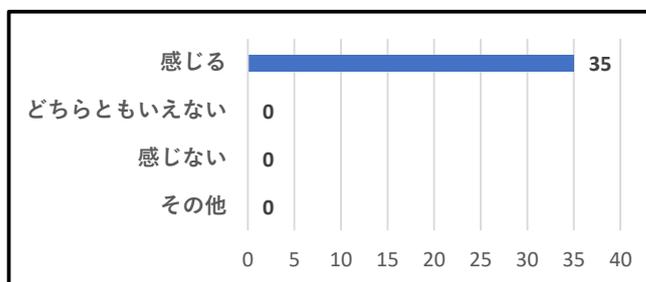
その他・・・病院のチラシ



3 研修の内容について

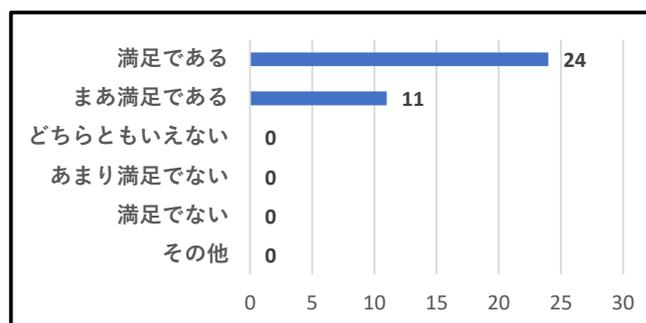
(1) 必要性を感じるものでしたか

感じる	35
どちらともいえない	0
感じない	0
その他	0



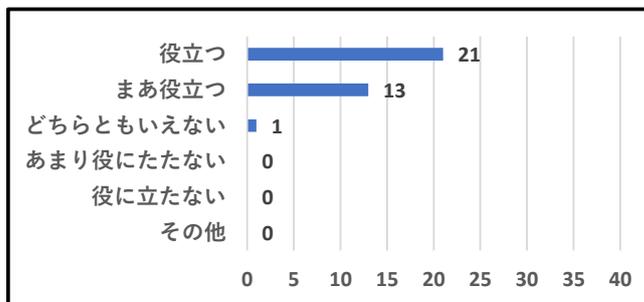
(2) 満足できるものでしたか

満足である	24
まあ満足である	11
どちらともいえない	0
あまり満足でない	0
満足でない	0
その他	0



(3) 今後の職務に役立つものでしたか

役立つ	21
まあ役立つ	13
どちらともいえない	1
あまり役にたたない	0
役に立たない	0
その他	0



4 研修会の感想・お気づきの点

<家族支援の必要性>9件

- ・本人だけでなく、家族に対するアプローチの重要性について学ぶことができた。
- ・家族支援が重要であり、安心できる支援者として認知される事が重要であると理解できた。
- ・地域全体で本人だけでなく、家族にも支援することが大切であると再認識することができた。
- ・今家族がどう支えられると今後の改善につながるのかヒントがいただけた。等

<現状・実態、事例からの学び>6件

- ・家族会KHJを知ることができてよかった。
- ・ひきこもりと支援の現状を知る事ができた。
- ・県内にも引きこもり支援センターがあることなど知らないことが沢山あり勉強になった。等

<連携の必要性について>5件

- ・家族・本人支援も、制度を横断して多職種協働ということになるように思われた。
- ・家族会への参加は効果的。
- ・福祉とつながっていない人達に対して周りから繋げられる支援が必要だと思った。
- ・行政の中で、どのように連携するとよいのか考えさせられた。民間との連携は欠かせない。
- ・当事者の方は頭では分かっている、実際に行動することは難しいのでサポートシステムは大切だと感じた。

<地域づくりの必要性>4件

- ・世帯の複合的な課題の1つとして、引きこもり支援について考えることで、その道筋が見えるのだとわかった。
- ・社会、地域、家族、教育の視点から、ひきこもりを考えていく必要がある。等

<本人支援についての学び>3件

- ・引きこもりの状況の方の回復には周囲の理解と相手への共感が必要であることがとても分かった。
- ・引きこもり者へ、また会いましょうと言う声掛けや関わりを継続していくことは大変な事だと思った。

<その他>

- ・運営に関する意見（オンライン運営、グループワークでの目的、テーマ設定の具体化等のご要望）
- ・テーマはいつも興味深いものが多く今回も参考になった。

5 今後、研修会でとりあげて欲しいテーマ

いつもフレッシュなテーマを提供して頂き、資料も全て下さるので復習に役立ち効果的です。感謝しています。

地域診断について

認知症当事者ではなく、その家族によって支援につながらないケースが最近増えているように感じます。支援につながるアプローチ方法等についてご教授いただけますと幸いです。

具体的事例に対する介入について、いくつか事例があれば、より分かりやすくありがたいと思いました。グループワークは、テーマ設定があるといいと思いました。